

Rational software

IBM Rational RequisitePro

主な特長

- **ビジネス・アナリスト、アーキテクト、設計担当者、開発者、テスト担当者に、カスタマイズされた要求へのアクセスを提供**
- **監査証跡や電子メール通知機能によって、詳細な変更影響分析を促進**
- **分散型チーム向けの拡張性の高い高速な Web インターフェース、およびエンタープライズ環境向けの高いセキュリティが確保された高機能のモデル**
- **プロジェクトのベースラインの作成と比較を支援**
- **Microsoft Word 文書とデータベース内の要求のリンク機能**
- **高いトレーサビリティと詳細なカバレッジ分析**
- **IBM RUP ソリューションのベスト・プラクティスをサポート**

要求の定義・管理の重要性

IBMは20年以上にわたってお客様のソフトウェア・アプリケーションの開発と配備を支援しています。その経験の中で、要求の定義・管理がプロジェクトを成功に導くための重要な鍵を握っていることを幾度となく実感してきました。IBM Rational® RequisitePro® を使用すれば、効果的な要求管理を実現することができます。

要求の取り込みとやり取り

効果的な要求管理プロセスを実現するためには、要求定義作業中に見出された要求を記録しておくことが極めて重要です。要求を共通の場所で一元管理することによって、随時変化する要求を的確に管理して通知することができます。

要求を定義して取り込むときには、Microsoft® Word アプリケーションを使用してユースケース図や仕様書を作成できます。また、IBM Rational Requirements Composer¹ のビジネス・プロセス図やユーザー・インターフェース・ストーリーボードを使用したり、Rational RequisitePro クライアントまたは全機能を利用可能な Web インターフェースからデータベースに直接要求を書き込んだりもできます。

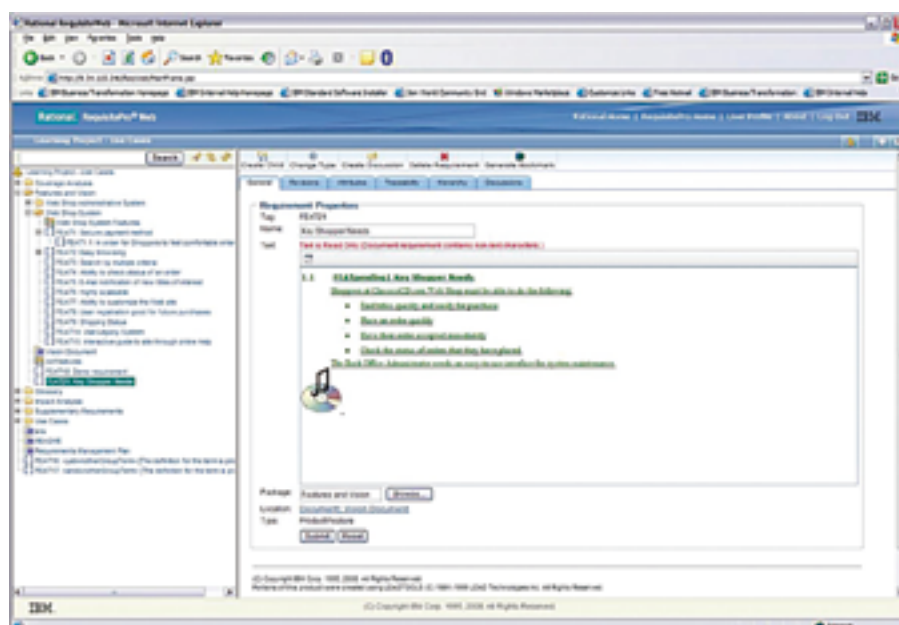


図 1: Microsoft Word や Rational Requirements Composer で作成した要求は、要求のプロパティビューにリッチ・テキスト形式 (Rich Text Format (RTF)) で表示できます。

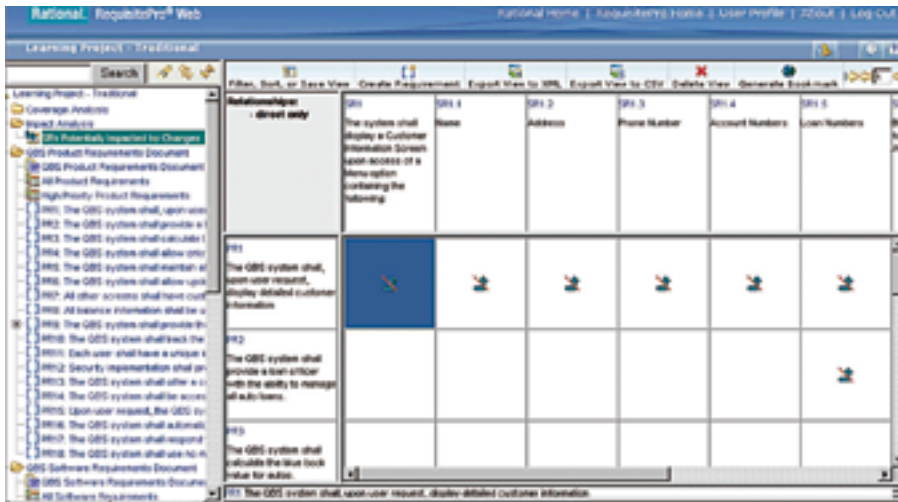


図 2: Rational RequisitePro Web インターフェースと Rational RequisitePro クライアントでは、ツリービューでトレーサビリティを簡単に確認できます。関連する要求は一般的な展開/縮小形式で表示され、要求を選択すると詳細がわかりやすく表示されます。

Rational RequisitePro では、使い慣れたライセンス取得済みの Microsoft Word を利用して、Word 形式の要求文書をデータベースとリンクすることによって、簡単に要求を取り込むことができます。データベース内の要求をダブルクリックすると Microsoft Word が起動し、文書内の該当箇所を直接参照できます。

また、要求のプロパティとビューにも、属性やトレーサビリティ・マトリクスとともにリッチ・テキスト形式で要求が表示されます。Microsoft Word、Rational Requirements Composer および Rational RequisitePro で作成した要求文書のフォントやスタイルは、Rational RequisitePro Web インターフェースでも維持されます。

Rational RequisitePro は、業界標準の一般的なデータベース (IBM DB2[®]、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Access) をサポートしており、ニーズに合わせた最適な構造で要求情報をパッケージ (フォルダー) 内で簡単に編成できます。また、ビューからデータベースに優先度を指定して要求をリンクしたり、変更を追跡したりできます。

変更の影響の把握

変更は避けられませんが、それはプロジェクトの敵ではありません。IBM Rational RequisitePro を使用することにより、ある要求への変更が他の要求にどのように影響するかを確認し、プロジェクトのリスクを見抜くことができます。影響分析を行うことによって、詳細な情報を得た上で、スコープの管理やリソースの再配置に関する決断を迅速に下すことができます。また、要求の変更に伴って各変更を Rational RequisitePro で取り込み、追跡し、詳細に文書化することができます。要求の監査証跡文書には、誰が、いつ、何を、どのような理由で変更したかが記録されます。また、変更によって担当作業の優先順位が左右される関係者をあらかじめ定義しておき、要求が変更されたときにそれらの関係者に電子メールを自動的に送信することができます。

複数のリリース間の要求変更を追跡管理できるように、Rational RequisitePro では要求のベースラインを作成・比較できるようになっています。ベースラインとは、アプリケーションの特定のバージョンの要求を論理的にグループ化したものです。Rational RequisitePro では、このようなベースラインを作成してそれらと比較し、Web アクセス可能なレポートでプロジェクト・レベル、文書レベル、要求レベルの違いを確認できます。また、プロジェクトのベースラインは新しいリリースの作成を推進し、履歴データの効率的な転送に役立ちます。

Web 上での要求管理

全機能にアクセスできる IBM Rational RequisitePro Web インターフェースを使用することによって、リモート・チームのメンバーは要求と要求文書を作成、表示、変更できます。また、管理者はプロジェクトを管理でき、ユーザーは、要求間の関係をビジュアルに示すトレーサビリティ・ツリーで要求をトレースできます。

Web インターフェースでは Microsoft Word 統合機能を使用して要求を作成、編集できるため、リモート・チーム・メンバーのデスクトップ上にシック・クライアント・インターフェースをインストールする必要がありません。ユーザーは、Web サーバーに接続するかどうかを選択して、Word 文書をローカルに編集することができます。

プロジェクト・レベルおよびパッケージ・レベルのアクセス保護

サイズの大きい複雑なプロジェクト向けに、Rational RequisitePro ではプロジェクト・レベルおよびパッケージ・レベルでセキュリティ権限を割り当てられるようになっています。パッケージ権限を使用すれば、プロジェクト・レベルではなくパッケージ・レベルでセキュリティ権限を割り当てることができます。Rational RequisitePro クライアントおよび Web インターフェースで、個別のユーザー・グループの権限を明示的に設定したり、要求、文書、ビュー、パッケージに権限が継承されるように設定したりできます。つまり、プロジェクトを使用しているチームの任務が反映されるように、セキュリティ権限を割り当てることができます。

Rational RequisitePro には、FIPS (Federal Information Processing Standard) 準拠のデータベース・パスワード暗号化機能が組み込まれています。Rational RequisitePro の以前のバージョンは、独自の暗号化アルゴリズムで暗号化したパスワードをファイル・システムおよびデータベースに保存していましたが、バージョン 7.1 は、ファイル・システム上の既存の暗号化パスワードを、FIPS 140-2 準拠のアルゴリズムで暗号化したパスワードに置き換えます。ただし、この機能はデータベース内のユーザー・パスワードには変更を加えません。

ソフトウェア・ライフサイクル内の要求の統合

チームのメンバーは、ローカルで作業しているかリモートで作業しているかにかかわらず、要求に関する情報が的確に与えられていれば、プロジェクトやビジネスの目標を満たすソリューションを正確に提供できます。ライフサイクル内の他の成果物やプロセスと要求を統合することによって、的確なコミュニケーションが促進され、再作業にかかる時間が短縮されます。

ビジネス・アナリスト向けの要求アクセス

多くの場合、ビジネスを改善するための第一歩は、ビジネス・プロセス、組織、リソースを的確に把握するためのビジネス・モデルを作成して公開することです。Rational RequisitePro では、IBM Rational Requirements Composer および IBM WebSphere® Business Modeler から要求にアクセスして、ビジネス・アナリストがタスク、プロセス、リソースを要求と直接関連付けることができます。この機能を活用することによって、開発しているソフトウェアで確実にビジネス・ニーズを満たすことができます。

アーキテクト、設計担当者、開発者向けの要求アクセス

ソフトウェアを最適に設計し、再作業を最小限に抑えるためには、開発者がいつでも要求にアクセスできるようにする必要があります。IBM Rational RequisitePro を使用すれば、開発者は IBM Rational Software Architect および IBM Rational Software Modeler から要求にアクセスできます。

Rational RequisitePro では統合開発環境 (IDE) に要求情報が直接提供されるため、開発者は複数の製品間を行き来する必要がありません。初期設計段階では、Rational Requirements Composer が設計担当者に軽量のユースケースの選択肢を提供します。

Rational RequisitePro のこれらの統合機能を使用することによって、開発者は要求をユースケース・モデルに関連付けて、ユースケース図からユースケースの仕様に瞬時にアクセスできるようになるとともに、要求情報を確認できるようになります。それにより、開発者は、変化する顧客のニーズを正確に反映した機能を実装できるようになります。

また、Rational RequisitePro、Rational Requirements Composer、Rational Software Architect および Rational Software Modeler の統合環境で IBM Rational ClearQuest® を使用することによって、設計要素を要求と作業項目に関連付けることができます。設計要素を要求と作業項目に関連付けることによって、設計要素に関する要求の変更の影響を簡単に確認・評価し、影響を受ける可能性のある開発者に変更を通知することができます。

テスト担当者向けの要求アクセス

もし最新の要求を参照できないとしたら、テスト担当者は作業の優先順位を適切に決めることができるでしょうか。Rational RequisitePro と、IBM Rational Quality Manager²、IBM Rational Functional Tester、IBM Rational Performance Tester の統合環境では、要求がテストのプランニングとテスト・ケースの作成の直接的な入力データとして使用されるため、テスト担当者や品質保証 (QA) エンジニアが確信を持ってアプリケーションを検証できます。また、要求が変更された場合には、その変更の影響を受けるテスト・ケースをテスト担当者が特定できるため、テスト・ケースを適宜更新して最新の要求を反映させることができます。

チーム向けの要求アクセス

チーム・ベースのソリューションである Rational RequisitePro は、いくつかの IBM Rational Lifecycle Packages³ の一部として提供されています。これらの統合ソリューションは、部署間のチームを統合し、作業者の生産性を高め、プロセス採用を簡素化できるように設計されており、開発を成功に導く共有プラットフォームをプロジェクト・チームに提供します。

ベスト・プラクティスのサポート

要求管理は、多くの企業において改善の余地のある重要な分野です。IBM Rational RequisitePro では IBM Rational Unified Process[®] (RUP[®]) などのさまざまな手法が柔軟にサポートされているため、業界で実証済みのベスト・プラクティスに従った要求管理プロセスと自動化プロセスを導入できます。

詳細の参照先

IBM Rational RequisitePro についての詳細は、IBM 担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下の Web サイトを参照してください。

ibm.com/jp/software/rational/products/req/reqpro/

- 1 IBM Rational Requirements Composer についての詳細は、ibm.com/jp/software/rational/products/requirement/rrc/ を参照してください。
- 2 IBM Rational Quality Manager についての詳細は、ibm.com/jp/software/rational/products/test/rqm/ を参照してください。
- 3 IBM Rational Lifecycle Packages についての詳細は、ibm.com/jp/software/rational/products/rlp/ を参照してください。



お問い合わせは、IBM ビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員または、ダイヤル IBM (0120-04-1992) へ。
受付時間：月～金 9:00～18:00 (祝日 12/30～1/3 を除く)
携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号でご利用ください。
ダイヤル IBM 03-6220-8002 (この場合通話料金はお客様のご負担となります)。

© Copyright IBM Corporation 2008

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

Produced in Japan
2008 年 11 月
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com および Rational は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Microsoft は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書に含まれる情報は、情報提供のみを目的に提供されています。本書の情報の完全性および正確性については最善の努力を払いましたが、本書の内容は法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負うことなく、現存するままの状態を提供されます。また、本書は IBM の現在の製品プランまたは戦略に基づくものです。この製品プランまたは戦略は予告なく変更されることがあります。IBM は本書およびその他関連文書の使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。本書は、IBM (または IBM のサプライヤーまたはライセンサー) がいかなる保証責任を負わせるものではなく、また、IBM ソフトウェアの使用に際し適用される、プログラムのご使用条件の内容も変更するものではありません。